平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果　（※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3090100433		
法人名	株式会社春風会		
事業所名	春風会かたおなみ　2階ユニット		
所在地	和歌山市和歌浦東4丁目3－51		
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果市町村受理日	平成23年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3090100433&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　認知症サポートわかやま
所在地	和歌山市四番丁52　ハラダビル2F
訪問調査日	平成23年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム二階リビングに「仁慈絡歓」の理念を掲げている。月に二回のカンファレンスにて職員一人一人の理念に対する理解について発表をしている。
地域の方や家族様がいつでも訪問していただけるような、開かれたグループホームであるよう努めている。
法人内はもちろん、外部研修にも積極的に参加できるよう勤務体制に配慮し、情報提供や機会を確保している。研修報告をカンファレンスで発表して職場に活用できるように促進している。
県内における地域密着型サービスの事業所間のネットワークに加盟し、勉強会や研修会に参加して質の向上を目指した取り組みをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

和歌浦湾が一望できる環境で、1階と2階、2ユニットのグループホームである。開設から1年に満たないが、同敷地内に以前からある認知症対応型デイサービスを利用していた人や近隣に居住していた入が入居しており、家族だけでなく地域住民の訪問も多く、入居者となじみの関係が継続できている。職員は「互いに支え合う介護」が実現できるように、認知症の人との繋がりを大切にして、本人が穏やかに暮らすことができるように見守っている。家族の訪問が頻繁にあり、家族から得られた意見や情報を常にサービスの向上に活かすようにしている。法人代表者や管理者は、内・外部の研修に積極的に参加して認知症ケアの質の向上に取り組んでおり、職員が学ぶ機会も確保されている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム二階リビングに理念を掲げている。月に二回のカンファレンスにて職員一人一人の理念に対する理解について発表をしている。	法人の理念である「仁慈絡歓」に加え、地域密着型サービスとしての理念も作り上げている。月2回のカンファレンスで、理念についての考えを代表や各職員が対等の立場で発表し、共有できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の班長をさせてもらい、回覧板をご近所に回している。夏祭りや地域の一斉清掃日、防災訓練等に入居者様とともに参加している。	法人として自治会に加入し、地域の清掃活動や防災訓練に参加している。小学校で行われた今年の地域の夏祭りでは車いすでも参加できるようにテントを用意してくれるなど、地域の協力の中で交流できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お困り事などあればご相談を受けるように居宅介護支援、訪問介護、デイサービス、保険外でのライフサポート等も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、地域の方やご家族、入居者様、知見者等よりの意見を聞き職場に活かしている。	会議は隔月毎に開き、入居者や知見者として他事業所の職員の参加もあり、各々の立場で活発な意見が出されている。包括職員の参加に加えて、市の担当者の参加への働きかけも検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月のグループホームの入居者数、待機者数の報告をFAXでしており、また入居者家族様よりの質問があった時などは、市の担当者に確認をしてご指導を頂いている。	毎月の便りを送付し情報提供を行っている。また、入居者の介護者の問題や、それまで住んでいた住居の問題など事業所だけでは判断できないことについては市の担当者に相談し、判断を仰いでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新任研修、現任研修、毎月のカンファレンス等においても身体拘束をしないケアの実践について、理解を深め話し合いながら日々取り組んでいる。	身体拘束の排除については研修を徹底して実践に努めている。1階の玄関は施錠していないが、1階と2階を結ぶエレベーターには鍵がかかっており、職員に声をかけなければ自由に利用できない。階段はあるが、急なため職員だけが利用している。	自由な暮らしへの支援という視点からエレベーターの鍵も身体拘束であるという認識を持ち、職員の見守りのなかでエレベーターが自由に使用できる環境となることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	上記と同じく職員同士が意識を持って取り組むように、またどんなことでも気づきやヒヤリハット報告をすすんで提出するよう促している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護に関する制度について学ぶ機会を作っており、入居者様への支援に役立てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約、改定等においては十分に家族様等に説明を行い、ご理解を得るようにしている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からの意見は常に職員に伝達し、見直しや改善策をともに検討し、運営に反映させている。	家族の訪問が頻繁にあり、全職員で家族から意見が出しやすいような雰囲気作りに努めている。家族会という形式はとっていないが、行事の後で茶話会も設けている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別にて意見や提案を聞くよう機会を作り反映させている。	各ユニットリーダーが職員の意見を聞き取り、まとめて管理者に伝えている。開設当時は1名であった夜勤の職員を、職員からの要望で2名に増員するなど、出された意見は積極的に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月一回の主管者会議を開催し状況を把握しており、管理者や職員との個別面談をしながら意見を聞き、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内はもちろん、外部研修にも積極的に参加できるよう勤務体制に配慮し、情報提供や機会を確保している。研修報告をカンファレンスで発表して職場に活用できるように促進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内における地域密着型サービスの事業所間のネットワークに加盟し、勉強会や研修会に参加して質の向上を目指した取り組みをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや希望、要望を聞き安心して暮らしていただけるように信頼関係作りに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との関係作りには常に配慮し、いつでもご相談いただけるように面会時等には必ず顔を合わせ、会話することを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様等が必要としている支援についてアセスメントを行い、適切なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームにおいて、共に生活する者同士という気持ちで入居様と接しながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様については、家族様との連絡を密にして、協力をいただきながらともに支援していく関係を築いている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との電話の取り次ぎや買い物、外食等の外出支援を行っている。また定期的な自宅への帰省の支援にも努めている。	知人の訪問など、馴染みの関係の継続を支援している。週末を家族と過ごしたり、今まで利用していた図書館や美容室の利用や墓参りなど、これまでの習慣を継続できるよう、家族と共に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士での雑談の場所やカラオケなども準備し、けんかの仲裁などもしながら、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に帰られた方には担当ケアマネージャーを通じ情報を聞いたり、直接電話したりしている。他の病院や施設に行かれた場合にも、経過状況を家族様に確認したり時々面会に行きフォローしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本を借りて読みたいとの希望には定期的に市立図書館へ同行したり、、近くの美容室にカットや毛染めの予約をして外出支援をしている。	飲酒の習慣があった人には、医師と相談しノンアルコールビールで気分を味わえるよう支援している。自分の希望を伝えにくい入居者にも顔色や態度で判断し、その人の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族様から以前の職業や住んでいた場所、交流関係、趣味や特技などを聞き、馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「できることできないことシート」を使用しながら、本人の現状をアセスメントしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各部屋の担当を決め、職場からの気付きや、家族様との話し合いの中からそれを反映した介護計画を作成している。	計画の作成は月2回のカンファレンスや日々の職員からの情報をもとに行い、見直しは3ケ月毎に行っている。計画書の内容は包括的な表記が多く、具体的なサービス内容がわかりにくい。	個別のケアにはきめ細かな記録と情報の共有が不可欠である。個々の入居者に対してのより具体的なサービス内容を盛り込んだ計画書の作成を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践記録、特記事項、気付きを個別に記録し申し送りをしながら情報の伝達・共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスをご利用の方や職員との交流、主治医から紹介された鍼灸、自費でのデイケア利用等個別に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館や市民会館、美術館、地域の美容室、レストラン等も利用して豊かな暮らしを楽しむ支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人様の主治医を確認してグループホームへの往診を依頼し、家族様には受診時のご協力を得ている。希望があれば協力医療機関へのご紹介をし、往診していただけるような関係を築いている。	本人や家族の希望するかかりつけ医で受診できるように支援しており、医療機関には月2回のグループホームへの往診を依頼している。受診時には必要に応じ福祉タクシー利用の手配も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調変化や気付きを看護職員に伝え、適切な助言や処置をしてもらえるような協力体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の担当医師や看護職員との情報交換、相談をしながら早期退院ができるように、ADLに合わせた福祉用具の準備や食事提供の情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にターミナルについての家族様の意向や、グループホームでの支援のあり方についてはお話をさせてもらっている。	重度化や終末期の対応については、契約時に家族と話し合っている。重度化した場合は、訪問看護で対応できる範囲であれば受け入れる予定であり、医療連携の必要性も検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルを作成し、急変に備えてのシュミレーションは行っているが、定期的な応急手当や初期対応の訓練は行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加したり、避難場所の確認は行えているが、入居者様が避難できる方法を全職員が身につけるまでには至っていない。	年に1回、地域で行われる防災訓練には入居者とともに参加している。ホーム内で行われる避難訓練も入居者と共に行っているが、地域住民の参加はない。災害時の食糧の備蓄は用意されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や入浴介助は可能な限り同性介助をしており、言葉かけや対応についても人格を尊重しつつ支援するよう心掛けている。	個人の尊厳を守ることへの周知は、研修などを通して全員に行っている。言葉かけについても適切になされ、排泄時には自尊心を傷つけないよう声の大きさにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	見たいテレビ番組、おやつや食事についても選択や自己決定できるようにご本人に聞きながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活パターンはある程度決まっているが、その日の体調や気分によって変更が可能であるよう、柔軟な対応をして希望に沿える支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装やおしゃれができるように、助言したりお手伝いしている。必要な時には買い物に同行したり、定期的にカットやパーマにも行くよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る調理の下準備をしてもらったり、盛り付け等の手伝いをしてもらいながら一緒に取り組んでいる。また食器洗いや片付け等もお手伝いしてもらっている。	買い物や調理は入居者と共に行い、メニューは入居者の希望も聞いている。食事はできる限り職員も一緒に食べるようにしているが、昼食時は同席できないこともある。食事中もテレビがつけられたままである。	皆での食事は家庭的な雰囲気を味わうことができ、互いをより知ることにも繋がる。昼食時も職員とともに食事を楽しめる支援が望まれ、食事中のテレビについても配慮がほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に量や形態に配慮し、必要に応じ水分にはとろみ剤を使用し、十分な水分摂取が出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に口腔ケアの支援をしており、自己で出来るように声かけや準備をして、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄支援をしており、昼間はトイレへの定時誘導や本人の訴え時に対応した取り組みをしている。	排便は排便表で管理をしている。排尿は介助が必要な人は記録を取り、定期的な誘導を行っている。リハビリパンツや尿パッドの使用により、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量が不足しないように働き掛けながら、消化吸収力が低下している方には粥や刻み等の対応、腹部マッサージ等に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の希望に合わせた支援をしているが、職員（男性）が不在の時などは本人の意に沿わない日もある。	入浴は職員の多い時間帯に行われており、ほぼ隔日に入浴できるよう支援している。入浴を拒む場合は足浴やシャワー浴に切り替えたり、入浴の時間を変更するなど、できるだけ入浴の機会が持てるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠を促すために寝具や空調整備をしている。本人の希望に応じ午睡や起床時間についても柔軟な対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬に関する情報を共有できるようにファイルしており、服薬についての変化があれば常に職員が確認するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力に応じた役割をしていただいている。楽しみごととしてはラーメンを食べに行ったり、カラオケやドライブをしたりして気分転換を図る支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望で墓参りやご自身のご自宅の片付け等の外出を、ご家族の協力を得て支援している・	近くの公園や神社を散歩するなど、できるだけ戸外に出られるよう支援している。図書館や美容室など本人の希望する所への外出は家族の協力を得て行っている。また隣接するデイサービスを訪問することもある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方はほとんどおられないので、管理者が家族様より預かっている。自分の財布を持って、通院費やタクシー代金を同行者見守りで支払っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様ごとの能力に応じ、できる方には電話をしたり手紙をやり取りしたりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すために折々の花を生けたり、飾り付けをしたりしている。快適に暮らせるように空調管理や清掃を心掛けている。	リビングにはソファも置かれ、好きな場所でくつろぐことができる。季節を感じられるよう、生花や壁飾りなども工夫している。各居室の表札は本人の希望もあり、「様」付けで様子をみている。	「様」付けの表札は、共に生きる生活者の視点を持つ上での職員、家族、入居者の意識にも影響するところがある。家庭の延長としての生活を提供するグループホームのあり方を考え、検討が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやいす等を設置して自由に座りたい場所に座っていただいている。また窓際にいすを置いたりして工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持参していただくようにしている。配置についても本人と家族様が相談しながら行っている。	居室には家具は設置していないため、好みのレイアウトができ、床はフローリングだが、畳を敷くこともできる。部屋にはベッドやクローゼットなど使い慣れたものが持ちこまれ、落ち着ける部屋作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋からトイレまでの手すりを設置したり、各部屋には必要に応じセンサーマットを置き、安全対策をしている。		